



# 帝京大学小学校だより

帝京大学小学校

英会話 ローン牛丼 ハンバーガー ここはどこかの すべての駅前(投歌選集・過去未来より)

帝京大学小学校 校長

石井 卓之

教育の世界にも流行はあります。それは社会の要請によるものが大きいと考えています。しかし、世の中のニーズばかりを追っていると、「らしさ」はなくなり、すべての駅前に同じような店が並ぶように「学校の色」が見えにくくなります。帝京大学小学校で進めている「自分の頭で考える」は、時代の要請であり、本校の色であると確信しています。夏休み中のサッカーの対外試合での様子について、保護者の方から話があったと3年生の統括主任が伝えてくれました。以下がその概略です。

それは、ゴールキーパーがいないルールで試合を行ったときのこと。キーパーがいない分、自分たちで考えて動くことが重要になる試合となった。帝京大学小学校のチームはベンチにいる子も声を出して、お互いに指示を出し合っていた。「自分で考えて行動する姿」を実践できていて、学校の日常の指導が生かされていたと感じた。

とてもうれしい内容でした。また先日、本校に毎年ゼミ生と来校し、学校参観をしている他大学の先生からも「来校する度、授業中に子ども達が自分で考える時間が増え、落ち着いて学んでいることが分かります。とても素晴らしいと思います。」という感想をもらいました。

これから実施する運動会の表現でも、教師が理想型を教え込むのではなく、縦割りを活用しながら上学年が昨年学んだことを下学年に教える活動を通して、「自分の頭で考える」場を多く設定していきます。また、応援団や係活動、学年競技の中にも、子ども達の思考の場を仕組んでいきます。当日の結果だけでなく、子ども達が運動会という行事の過程で何をがんばり、どう工夫しているのか、是非ご家庭でも聞いてほしいと思います。

先日、豊田のバスを使っている保護者の方から、今年は夏祭りが復活して土曜授業の日に駅前にスクールバスが入れなくなるという情報提供がありました。学校では、地域の情報を多様な方法で得ようとしています。通学区域が広いために気付かないことも数多くあります。今回のような地元だから知り得ることは、学校ではつかみにくい情報となります。本当に助かりました。

今後も、地域に関する情報で学校の教育活動に影響がありそうだと感じたことは、教えていただけると助かります。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

## 職員室の窓

図工科では、子どもたちの「やってみたい！」の気持ちを大切にしながら、教科の枠にとらわれない幅広い学びを追求しています。様々な道具の使い方や技法を学びながら、子どもたち自身が自分に合った表現方法を見つけていきます。子どもたちが表現すること・違いを認め合うことの難しさや良さ、面白さを発見し、深い学びが発動できるように助言しながら見守っていきます。



《図工科:倉本 祐子》



英語科では、実際の会話場面で英語を話す力の育成を目指しています。そのために会話や発表などの言語活動を中心に授業を展開しています。同時に、ゲームやアクティビティを豊富に取り入れ、楽しみながら学習できる授業を心掛けています。キンバリー先生やダグ先生と楽しく英語を学び日常生活で活用できるように指導していきます。

《英語科:三上 涼加》